

## 平成22年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立七尾高等学校

学校長 山本 登紀男

## 1. 教育目標

- (1) 真理と正義を愛する心を育て、個性の伸張を図る。
- (2) 敬愛協和の社会的資質を養い、平和愛好の心を培う。
- (3) 強健な身体と創造力豊かな自主的精神を育成する。

## 2. 中・長期的目標

## (1) 学校の現状

教員による、生徒の目線で労を惜しまない指導・支援体制が一層推進され、生徒・教員・保護者相互の信頼関係に基づいた教育活動が展開されている。さらに一段高いレベルの教育活動を展開するために、今後あらゆる場面で質の向上を図る必要がある。

## ① 教育活動

## ・教科指導

教科研究会、習熟度別授業、授業公開、中高連携、生徒による授業評価等を利用して、教員一人ひとりの授業改善、個に応じた指導体制の整備に取り組んでいる。今後はさらなる授業改善の充実をめざす。

## ・自主及び自律精神

生徒面談、登校指導、生徒による挨拶運動、自主的な生徒会活動や部活動等により着実に成果を上げているが、今後は自主性及び自律性を備えた生徒の育成のための取り組みや指導方法の開発が必要である。

## ・進路指導

学習オリエンテーション、生徒面談、保護者懇談、講演会、保護者進路説明会等により、進路意識の啓発と情報提供に努め、また、平日補習、夏季補習、宿泊学習、習熟度別学習指導、組織的な個人添削指導の実施により学力の強化を図っている。

今後は早期に目標を設定させる指導や進路志望に応じた指導体制・指導内容の改善に加え、3年間を見通した指導体制の構築・教員全員による組織的指導体制の強化、教材開発・効果のある教材の利用方法の研究が必要である。

## ・SSH 事業

「能登を科学する」の観点で、身近にある豊かな自然を教材としてフィールドワークを取り入れながら事業展開を行ってきた。また、NUSハイスクールとの相互交流を通して、国際的な場面で活躍できるよう、英語コミュニケーション能力の育成も図っている。生徒は、先端科学技術に対する興味関心を高め、粘り強く取り組み姿勢を身に付けており、今後は国際性を身に付けるための取り組みを一層充実させていかなければならない。

## ② 学校運営

「学校評価システム」および目標管理型学校経営の具現化により教職員の組織的な教育活動が充実してきた。また、「開かれた学校づくり」の推進にも努め、具体的には能登地区七会場で中学生及びその保護者を対象に学校説明会を実施するなどして、地域の信頼と協力を得ることができた。さらに、校務運営委員会の改善により、主任が本校の現状や中・長期的な課題を的確に把握し、それらの問題や課題に迅速に対応する体制が充実してきた。今後はさらなる発展、充実を目指す。

## (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 自ら進んで学習する意欲を喚起し、自ら学び自ら考える姿勢を育成する。
- ② 自主的な体験を尊重し、豊かな情操、強靱な体力、明朗不屈の精神を養う。
- ③ 人間性を善導し、互いに人格を尊重する精神を育成する。
- ④ きめ細かい進路指導を通して、進路意識の向上と能力・個性の伸張を図り、自己実現能力を育成する。
- ⑤ 郷土を愛し、国際的視野にたつて国家・社会に貢献する態度を育成する。

## (3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 全教職員が本校の歴史と伝統を踏まえながら、創造性を発揮し生徒の自己実現の支援に全力を傾注する。
- ② 教職員一人ひとりが時代の変化に対応できるよう意識改革に努め、高い専門性と幅広い視野、深い生徒理解力を身に付けるよう研修に励む。
- ③ 目標管理型学校経営の充実を目標に、教職員の意識改革をすすめ参画意識を向上させ、組織的教育力を強化する。
- ④ 本校の果たすべき役割や責任を明確にして保護者や地域社会に学校の経営方針や教育活動に関する情報を発信し、学校に対する信頼と協力を得る。

## 3. 今年度の重点目標

## (1) 学習習慣の確立と教科指導力の強化

- ① 自主的計画的な学習態度の育成に努め、平日の家庭学習3時間以上の割合90%以上を目指すとともに、休日学習の充実を図る。
- ② 計画的、恒常的な授業研究を実施し、教師一人ひとりの教科指導力を強化することで、生徒の学びの質を向上させる。
- ③ 生徒の習熟度に応じた授業や課題の質や量を研究工夫することで、全ての生徒に対応した有効な指導方法を確立する。

## (2) 自主性の高揚と規範意識の向上

- ① 学年会、生徒会などで組織的に取り組み、生徒の自主性・自律性を高める。
- ② 生徒と深く関わり、人間としての「在り方生き方」を考えさせることで規範意識や帰属意識・共生意識を育成する。

## (3) キャリア教育の推進と自己実現能力の育成

- ① 学校教育全体にキャリア教育を展開し、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力などの生きる力、及び自己実現を支える体力を育成する。
- ② 進路学習や講演会、生徒面談等により高い進路目標を持たせ、進路実現を目指す態度を早期に育成する。
- ③ 3年間を見通した指導体制の構築・教員全員による組織的指導体制の強化を図り、生徒の習熟度にあわせた教材の開発・利用方法の研究をすすめる。

## (4) 特色ある教育活動とSSH事業による人材育成

- ① 学校設定科目や課題研究、海外研修等を通して、事象を科学的に探究する論理的な思考力と創造性・独創性や英語活用能力を育成し、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成を目指す。
- ② 小中学生や地域にSSH事業を広報し、その成果を普及することによって本校理数科への理解を図る。